

【梁紀九】 屠維作噩，一年。

■梁、●北魏、続国訳漢文大成 経子史部 第 9 卷 085p

高祖武皇帝九中大通元年 (己酉, 529年)

●春, 正月, 甲寅 (50-49+1=2 日), 魏の於暉の所部都督の彭樂は二千餘騎を師いて叛し, 韓樓に奔り, 暉 (敢えてまた軍を進めてを邢杲を討たず) は引いて還る。

■辛酉 (57-49+1=9 日), 上は南郊に祀り, 大赦す。

●甲子 (60-49+1=12 日), 魏の汝南王の悦は國に還るを求め (前卷前年にあり), 之を許す。

■辛巳 (17+60-49+1=29 日), 上は明堂に祀る。

●【魏主の先祖の尊号】二月, 甲午 (30-19+1=12 日), 魏主は彭城の武宣王を尊びて文穆皇帝と為し, 廟號を肅祖とす。母の李妃を文穆皇后と為す。將に神主を太廟に遷し, 高祖を以て伯考と為さんとし, 大司馬兼録尚書の臨淮王の彧は表して諫め, 以為く、

「漢の高祖は太上皇廟を香街 (漢の長安の故城内左馮翊府の東北) に立て, 光武は南頓君を舂陵に祀る。元帝之光武に於けるは, 已に疏にして (9-086p) 服を絶てども (服は祖免に至れば, 服無し, これを絶服), 猶ほ身ずから子の道を奉じ, 入りて大宗を繼ぐ。高祖の徳は寰中に洽き, 道は無外に超え, 肅祖は勳は宇宙に格たると雖も, 猶ほ北面して臣と為る。又た, 二后は皆な將に配享せんとし, 乃ち是れ君臣は筵を並べ, 嫂叔は同室し, 竊に謂うに不可なり。」

吏部尚書の李神俊も亦た諫めるも, 聽かず, 彧は又た「帝」を去りて「皇」を著けんと請い, 亦た聽かず。

■詔して更めて二百四十號將軍を定め四十四班と為す。 (天監七年將軍を定めて 24 班と為す)

●壬寅 (38-19+1=20 日), 魏は濟陰王の暉業 (字は紹遠。北魏の景穆帝拓跋晃の玄孫) に詔して行台尚書を兼ねしめ, 都督の丘大千等梁國に鎮ぜしむ。暉業は, 小新成 (129 卷宋の孝武帝大明五年にあり) 之曾孫也。

●【邢杲討伐軍編成】三月, 壬戌 (58-48+1=11 日), 魏は上黨王の天穆に詔して邢杲を討たしめ, 費穆を以て前鋒大都督と為す。

●【未曾有の兄の追尊】夏, 四月, 癸未 (19-18+1=2 日), 魏は肅祖及び文穆皇后の神主を太廟に遷し, 又た彭城王の劼を追尊して孝宣皇帝と為す。臨淮王の彧は諫めて曰く、

「茲の事は古より未有の所なり (皇帝の兄を追尊する前例は無い), 陛下は作し而して不法ならば, 後世は何と觀んや!」

聽かず。

【元顥の洛陽占拠】

●【邢杲と元顥といずれを先に攻めるか】魏の元天穆は將に邢杲^{けいこう}を撃たんとし, 北海王の顥^{こう}が方に入寇するを以て, 文武を集めて之を議し, 衆は皆な曰く、

「杲の衆は強盛なり, 宜しく以て先と為すべし。」

行台の尚書の薛琡は曰く、

「邢杲の兵衆は多しと雖も, 鼠竊狗偷 (取るにたらない物を高価なものとして扱う) にして, 遠志有るに非ず。顥は帝室近親 (顥は北海王詳の子、魏主の從兄弟) にして, 來たりて義舉を稱す, 其の勢いは測り難し, 宜しく先に之

を去るべし。」

天穆は諸將多く朐を撃たんと欲すを以て、又た魏朝も亦た顥を以て孤弱と為すを以て、慮るに足らずと為し、天穆等に命じて先ず齊の地を定め、師を還して顥を撃たしむ、遂に兵を引いて東に出る。顥は陳慶之と虚に乗りて鉅城より進みて滎城（河南省開封道寧陵県の北、現・商丘市寧陵県）を抜き、遂に梁國に至る。魏の丘大千は衆七萬有り、分けて九城を築き以て之を拒む。慶之は之を攻め、旦より申に至り、其の三壘を抜き、大千は降を請う。顥は壇に登りて燔燎し、帝位に睢陽城南に即き、改元して孝基とす。濟陰王の暉業は羽林兵二萬を帥いて考城（河南省開封道考城県、現・開封市蘭考県）に軍し、慶之は攻めて其の城を抜き、暉業を擒とす。

●〔朐討伐成功〕 辛丑（37-18+1= 2 0 日）、魏の上黨王の天穆及び爾朱兆は朐を濟南に破り、朐は降り、洛陽に送り、之を斬る。兆は、滎之の從子也。

●五月，丁巳（53-48+1= 6 日）、魏は東南道大都督の楊昱を以て滎陽に鎮せしめ、尚書僕射の爾朱世隆を虎牢に鎮せしめ、侍中の爾朱世承を嶧〔山反〕に鎮せしむ。乙丑（1+60-48+1= 1 4 日）、内外は戒嚴す。

●〔元顥・陳慶之は虎牢を落して洛陽を目指す〕 戊辰（4+60-48+1= 1 7 日）、北海王の顥は梁國に克つ。顥は陳慶之を以て衛將軍、徐州刺史と為し、兵を引いて而して西す（洛陽に向かう）。楊昱は衆七萬を擁し、滎陽に據る。慶之は之を攻め、未だ抜かず。顥は人を遣わして昱に説き降ら使め、昱は從わず。元天穆は驃騎將軍の爾朱吐沒兒と大軍を將いて前後繼ぎて至る、梁の士卒は皆な恐る。慶之は鞍を解き馬に秣^{まぐさ}かい、將士を諭して曰く、

「吾は此に至りて以來、城を屠り地を略すこと、(9-087p) 實に少なからずと為す。君等は人の父兄を殺し、人の子女を掠め、亦た算無し矣。天穆之衆は、皆な是れ仇讎なり。我が輩の衆は才^{わずか}に七千、虜衆は三十餘萬、今日之事は、唯だ必死有りて乃ち生を得可き耳！虜の騎は多く、之と野戦す可からず、當に其の未だ盡くさざるに及び、急に攻めて其の城を取り而して之に據るべし。諸君は或は狐疑して、自ら屠膾を取る勿かれ！」

乃ち之に鼓し、城に登ら使め。將士は即ち相い帥いて蟻附し而して入る、癸酉（9+60-48+1= 2 2 日）、滎陽を抜き、楊昱を執る（楊昱は陳慶之の兵少なきを輕んじて、肉薄して急に攻めず）。諸將三百餘人は顥の帳前に伏して請いて曰く、

「陛下は江を渡りて三千里、遺鏃之費無し、昨は滎陽城下、一朝にして五百餘人を殺傷せり、願わくは楊昱を乞い以て衆意を快くせん！」

顥は曰く、

「我は江東に在りて梁主の言を聞き、初め兵を擧げて都に下るに、袁昂は吳郡（吳興に作るべし）と為りて降らず（144 卷齊の和帝中興元年にあり）、毎に其の忠節を稱す。楊昱は忠臣なり、奈何して之を殺すや！此の外は唯だ卿等の取る所なり。」

是に於いて昱の所部の統帥三十七人を斬り、皆な心を剝り而して之を食らう。俄に而して天穆等は兵を引いて城を圍み、慶之は騎三千を帥いて城を背にして力戦し、大いに之を破り、天穆、吐沒兒は皆な走る。慶之は進みて虎牢を撃ち、爾朱世隆は城を棄てて走り、魏の東中郎將（虎牢にあり）の辛纂を獲る。

●〔魏主は洛陽から河内に避難〕 魏主は將に出でて顥を避けんとし、未だ之く所を知らず、或は長安に之くを勧め、中書舍人の高道穆は曰く、

「關中は荒殘す、何ぞ復た往く可きや！顥の士衆は多からず、虚に乗りて深く入るのみ、將帥其の人を得ざるに由る、故に能く此に至る。陛下が若し親ら宿衛を帥い、高く募り重く賞して、城を背にして一戦す

れば、臣等は其の死力を竭くして、**顓**の孤軍を破るは必ずなり矣。或は勝負の期し難きを恐れれば、則ち車駕（車賀×）は河を渡り、大將軍の**天穆**、大丞相の**榮**を征（統は徴）し各々兵を引いて來會せ使め、犄角して進み討つに若かず、旬月之間に、必ず成功を見ん。此れ萬全之策也。」

魏主は之に従う。甲戌（10+60-48+1=23日）、**魏主**は北に行き、夜、河内郡（野王に治す）の北（錯誤で南か）に至り、**高道穆**に命じて燭下に於いて詔書數十紙を作り、遠近に佈告せしむ。是に於いて四方は始めて**魏主**の所在を知る。乙亥（11+60-48+1=24日）、**魏主**は河内に入る。

●**〔元顓の洛陽入場〕**臨淮王の**彧**、安豐王の**延明**は、百僚を帥い、府庫を封じ、法駕を備えて**顓**を迎える。丙子（12+60-48+1=25日）、**顓**は洛陽宮に入り、改元して建武とし、大赦す。**陳慶之**を以て侍中、車騎大將軍と為し、邑萬戸を増す。**楊椿**は洛陽に在り、**椿**の弟の**順**は冀州刺史^な為り、兄の子の**侃**は北中郎將為り、**魏主**に従いて河北に在り。**顓**の意は**椿**を忌み、而れども其の家は世々**顓**重なるを以て、人望を失うを恐れ、未だ敢えて誅さざる也。或は**椿**に出でて亡げるを勧め、**椿**は曰く、
「吾が内外の百口、何れの所にか逃匿せん！正に當に坐して天命を待つ耳。」

●**〔魏軍の反撃、侯暄戦死〕****顓**の後軍都督の**侯暄**は睢陽（梁国）を守り、後援を為す。魏の行台の**崔孝芬**、大都督の**刁宣**は馳せ往きて**暄**を圍み、晝夜急攻し、（9-088p）戊寅（14+60-48+1=27日）、**暄**は突きて走り、擒として之を斬る。

●**〔元天穆は北に渡り、費穆は陳慶之に投降〕**上黨王の**天穆**等は衆四萬を帥いて攻めて大梁（陳留の浞儀城）を抜き、**費穆**を分遣して兵二萬を將いて虎牢を攻め、**顓**は**陳慶之**をして之を撃た使む。**天穆**は**顓**を畏れ、將に北に河を渡らんとし、行台郎中の濟陰の**溫子升**に謂って曰く、
「卿は洛に向かわんと欲するか、我に隨いて北に渡ると為すや？」

子升は曰く、

「主上は虎牢の守りを失うを以て、此の狼狽を致す。**元顓**は新たに入りて、人情は未だ安ぜず、今往きて之を撃てば、克たざる者は無し。大王は京邑を平定し、大駕を奉迎すれば、此れ**桓**（桓×）、**文**之舉也。此れを捨てて北に渡れば、竊に大王の為に之を惜しむ。」

天穆は之を善しとし、而るに用いる能わず、遂に兵を引いて河を渡る。**費穆**は虎牢を攻め、將に抜かんとし、**天穆**の北に渡ると聞き、自ら後繼無きを以て、遂に**慶之**に降る。**慶之**は進みて大梁、梁國を撃ち、皆な之を下す。**慶之**は數千之衆を以て、鉅縣を發してより洛陽に至るまで、凡そ三十二城を取り、四十七戰して、向かう所皆な克つ。

●**〔元顓は魏主説得〕****顓**は黃門郎の**祖瑩**をして書を作りて**魏主**に遣ら使めて曰く、

「朕は泣いて梁朝に請いて、誓って恥を復するに在り、正に罪を**爾朱**に問い、卿を桎梏（手かせ足かせ、束縛）より出さんと欲す。卿は命を豺狼に托し、身を虎口に委ね、假に民地を獲るとも、本是れ**榮**の物なりて、固より卿の有に非ず。今國家の隆替は、卿と我とに在り。若し天道が順を助ければ、則ち皇魏は再び興らん。脱し或は然らざれば、**榮**に在りては福と為り、卿に於いては禍いと為る。卿は宜しく三復し、富貴保つ可し。」

●**〔梁支援の元顓への支持拡大せず〕****顓**は既に洛に入り、河より以南の州郡は多く之に附く。齊州刺史の沛郡の**王欣**は文武を集めて従う所を議し、曰く、

「北海（詳の子）、長樂（懿の子、いずれも顓祖の流れ）は、俱に帝室の近親なり、今宗祏（廟中の主を藏する石室）は移らず、我は赦を受けんと欲す、諸君の意は何如？」

坐に在るは色を失わざるは莫し。軍司の**崔光韶**は獨り抗言して曰く、

「**元顥**は制を梁に受け、寇仇之兵を引きて以て宗國を覆えさんとす、此れ魏之賊臣亂子（続は亂臣賊子）也。豈に唯だ**大王**の家事の宜しく切齒する所のみならんや、下官等は皆な朝眷（朝廷の恩眷）を荷ない、未だ敢えて仰ぎ従わず！」

長史の**崔景茂**等も皆な曰く、

「軍司の議は是なり。」

欣は乃ち**顥**の使いを斬る。**光韶**は、**亮**（崔亮は延昌・熙平の間に貴顕なり）之従父弟也。是に於いて襄州（魏の孝昌中に置き、襄城・舞陰・南安・期城・宣義・建城等の郡を赭陽に治す。河南省汝陽道方城県の東、現・南陽市方城県）刺史の**賈思同**、廣州（魏主が置く、南陽・順陽・定陵・魯陽・汝南・漢廣・襄城郡を領す、魯陽に治す、河南省河洛道魯山県、現・平頂山市魯山県）刺史の**鄭先護**、南兗州（魏の正光中に置き、陳留・梁郡・下蔡・譙軍・北梁郡・沛軍・馬頭軍を領す、治所は譙城、安徽省淮泗道亳県、現・亳州市譙城区）刺史の**元暹**も亦た**顥**の命を受けず。**思同**は、**思伯**（149 卷普通四年にあり）之弟也。**顥**は冀州刺史の**元孚**を以て東道行台と、彭城郡王と為し、**孚**は其の書を**魏主**に封送す。平陽王の**敬先**（元世遵の子）は兵を河橋に起こし以て**顥**を討ち、克たず而して死す。

【爾朱榮の反撃】

●**〔爾朱榮前驅して魏主は反撃へ〕** 魏は侍中、車騎將軍、尚書右僕射の**爾朱世隆**を以て使持節、行台僕射、大將軍、相州刺史と為し、鄴城に鎮ぜしむ。（9-089p）**魏主**之出でる也、單騎に而して去り、侍衛後宮は皆な案堵すること故の如し。**顥**は一旦之を得、號令の己に出でるや、四方の人情は其の風政を想う。而して**顥**は自ら謂えらく、天授なりと、遽に驕怠之志有り。宿昔の賓客近習は、鹹な寵待せられ、政事を干渉し、日夜酒を縦にし、軍國を恤えず、従う所の南兵は、市裡に陵暴し、朝野は望みを失う。**高道穆**の兄の子儒は洛陽より出でて**魏主**に従い、**魏主**は洛中の事を問ひ、子儒は曰く

「**顥**の敗れるは旦夕に在り、憂うるに足らざる也。」

爾朱榮は**魏主**の北に出でるを聞き、即時に傳を馳せて**魏主**に長子に見え、行き、且つ部分す。**魏主**は即日南に還り、**榮**は前驅と為る。旬日之間に、兵衆は大いに集まり、資糧器仗は、相い繼いで而して至る。**六月**，壬午（18-17+1=2 日），魏は大赦す。

●**榮**は既に南下し、並、肆は安んぜず、乃ち**爾朱天光**を以て並、肆等九州の行台と為し、仍ほ并州の事を行わしむ。**天光**は晉陽に至り、部分約勒し、所部は皆な安ず。

●**〔費穆殺害、爾朱榮は宗正珍孫を斬る〕** 己丑（25-17+1=9 日），**費穆**は洛陽に至り、**顥**は引いて入れ、責めるに河陰之事（前卷前年）を以て而して之を殺す。**顥**は都督の**宗正珍孫**をして河内太守の**元襲**と與に河内に據ら使む。**爾朱榮**は之を攻め、上黨王の**天穆**は兵を引いて之に會し、壬寅（38-17+1=22 日），其の城を抜き、**珍孫**及び**襲**を斬る。

●**辛亥**（47-17+1=31 日?），魏の淮陰（五代志に、眷陵郡湖陽縣に後魏は西淮安郡及び南襄州を置くと。猛者に淮安に作るべし）太守の**晉鴻**は湖陽（河南省汝陽道沁源縣南、現・南陽市唐河縣湖陽鎮）を以て來降す。

●**閏月**（**元嘉曆では七月が閏月、**）己未（55-47+1=9 日），南康簡王の**績**は卒す。

●**〔元顥は梁の増兵を望まず、陳慶之と対立〕** 魏の北海王の**顥**は既に志を得、密に臨淮王の**彧**、安豐王の**延明**と梁に叛せんと謀る。事難は未だ平らがず、**陳慶之**の兵力を藉りるを以て、故に外同じく内は異なり、言に猜忌多し。**慶之**も亦た密に之が備えを為し、**顥**に説いて曰く、

「今遠來して此に至り、未だ服せざる者は尚ほ多く、彼が若し吾が虚實を知り、兵を連ねて四合すれば、將に何を以て之を御がんや！宜しく**天子**（梁の蕭衍）に啟し、更に精兵を請い、並せて諸州に、南人の此に

没する者有れば悉く須く部送すべしと敕すべし」

顓は之に従わんと欲し、延明は曰く、

「慶之の兵は數千を出ざるに、已に自ら制し難し。今更に其の衆を増せば、寧ろ肯えて復た人の用を為さん乎！大權一たび去り、動息人に由れば、魏之宗廟は、斯に於いて墜ちん矣。」

顓は乃ち慶之の言を用いず。又た慶之が密に（梁の蕭衍に）啟せんことを慮り、乃ち上に表して曰く、

「今河北、河南は一時に克定す、唯だ爾朱榮のみは尚ほ敢えて跋扈す、臣は慶之と自ら能く擒討せん。州郡は新たに服し、正に須く綏撫すべし、宜しく更に復た兵を加えて、百姓を搖動すべからず。」

上は乃ち諸軍の繼ぎ進む者に詔して皆な境上に停めしむ。

●【元顓と陳慶之の駆け引き】洛中の南兵は一萬に満たず、而して羌、胡之衆は十倍し、軍副（軍の副官）の馬佛念は慶之の為（一本には謂）に曰く、（胡三省曰く、馬佛念は戦国の策士の氣有り。然れども必ず非常の才有り、然る後、以て非常の事を行う可し。陳慶之はいずくんぞ以て此れを辨ずるに足らんやと）

「將軍の威は河、洛に行い、聲は中原に震い、功は高く勢いは重し、魏の疑う所と為る、一旦變が不測に生ずれば、(9-090p) 慮り無かる可けん乎！若かず、其の備え無きに乗りて、顓を殺して洛に據らん、此れ千載の一時也。」

慶之は従わず。顓は先に慶之を以て徐州刺史と為し、因りて固く鎮に之かんと求め、顓の心は之を憚り、遣らずして、曰く、

「主上は洛陽之地を以て全く相い任委す、忽ち此の朝寄（梁朝の寄託する所）を捨てて、彭城に往かんと欲すると聞けば、君は遽に富貴を取り、國の計（梁國の計）を為さずと謂わん、徒らに君に損有るのみに非ず、恐らくは僕も並せて其の責めを受けん。」

慶之は敢えて復た言わず。

●■【爾朱榮を楊侃が励まし、元顓は逃亡】爾朱榮は顓と河上に相い持つ。慶之は北中城を守り、顓は自ら（河橋の）南岸に據る。慶之は三日に十一戦し、殺傷は甚だ衆し。夏州の義士有り顓の為に河中渚を守り、陰に榮と通謀し、橋を破りて效を立てんと求め、榮は兵を引いて之に赴く。橋の破れるに及びて、榮は應接すること逮ばず、顓は悉く此を屠り、榮は悵然として失望す。又た安豐王の延明は河に縁いて固く守り、而して北軍には船の渡る可き無きを以て、議するに北に還り、更に後舉を圖らんと欲す。黃門郎の楊侃は曰く、

「大王の并州を發する之日、已に夏州の義士之謀を知り指し來たりて之に應じる邪？^は為たまた廣く經略を施し帝室を匡復せんと欲する乎？夫れ兵を用いる者は、何ぞ嘗て散じず而して更に合し、瘡愈えて更に戦わざらんや。況んや今未だ損する所有らず、豈に一事の諧せざるを以て而して衆謀頓^{とみ}に廢す可けん乎！今四方顓顓^{ぎようぎよう}（仰ぎ望む）として、公の此の舉を視ず。若し未だ成る所有らずして、遽に復た引いて歸れば、民情は失望し、各々去就^{いだい}を懷かん。勝負の在る所は、未だ知る可からざる也。若かず、民材を征發し（^{續は徴發}）、多く桴筏（大きな筏は桴）を為り、間に舟楫を以て、河に縁いて布列し、數百里の中、皆な渡る勢いを為し、首尾は既に遠く、顓をして防ぐ所を知ら使めざらん、一旦渡るを得れば、必ず大功を立てん。」

高道穆は曰く、

「今乗輿飄蕩し、主は憂い臣は辱しめらる。大王は百萬之衆を擁し、天子を輔け而して諸侯に令す、若し分兵して筏を造り、所在に散じ渡れば、掌を指さして克つ可からん。奈何して此を捨てて北に歸らん、顓をして復た完聚するを得、天下に徴兵せ使むや！此れ所謂虺^き（まむし）を養いて蛇と成す（逸書に曰く、虺たる

とき摧かずば、蛇と為らば奈何と、文義を以てこれを觀れば、蓋し虺を以て小蛇と為す) なり、悔いるとも及ぶ無し矣。」

榮は曰く、

「楊黃門 (楊侃) 已に此の策を陳ず、當に相い與に之を議すべし。」

劉靈助は榮に言つて曰く、

「十日を出ずして、河南は必ず平らがん。」

伏波將軍の正平 (魏は聞喜・曲沃二県を以て正平郡を置く) の楊 [心烈] は其の族と馬渚に居り、自ら言う、

「小船數艘有り」

と、郷導を為すを求める。戊辰 (4+60-47+1=18日)、榮は車騎將軍の爾朱兆に命じて大都督の賀拔勝と材を縛りて筏を為り、馬渚の西の硤石 (河南省河洛道陝県の山、現・三門峽市陝州区) より夜渡り、顥の子の領軍將軍の冠受を襲撃して、之を擒とす。安豐王の延明之衆は之を聞き、大いに潰える。顥は據を失ひ、(9-091p) 麾下數百騎を帥いて南に走り、陳慶之は歩騎數千を収めて、陳を結びて東に還り、顥の得る所の諸城は、一時に復た魏に降る。爾朱榮は自ら陳慶之を追ひ、會々嵩高は水漲り (顥水は少室山に出て、五渡水は大室山に出て、顥水に入る、この水なり)、慶之の軍士は死散して略ぼ盡き、乃ち鬚髮を削りて沙門と為り、間行して汝陰に出で、建康に還り、猶ほ功を以て右衛將軍に除せられ、永興縣侯 (五代志に會稽郡會稽縣にもと永興縣ありと) に封じられる。

● 【魏主は洛陽に帰還】 中軍大都督兼領軍大將軍の楊津は入りて殿中に宿し、宮庭を掃灑し、府庫を封閉し、出でて魏主を北邨に迎え、流涕して謝罪し、帝は之を慰勞す。庚午 (6+60-47+1=20日)、帝は入りて華林園に居り、大赦す。爾朱兆 (硤石の功による) を以て車騎大將軍、儀同三司と為し、北來の軍士及び駕 (賀×) に隨う文武諸々の義を立てる者には五級を加え、河北の報事之官 (敵情偵察報告) 及び河南の義を立てる者には二級を加える。壬申 (8+60-47+1=22日)、大丞相の榮に天柱大將軍 (魏主が得に功績により与えた將軍号) を加え、封を増し前を通じて二十萬戸とす。

● 【北海王の顥は誅殺】 北海王の顥は轅轅より南に出でて臨穎 (河南省開封道臨穎縣、現・漯河市臨穎縣) に至り、從騎は分散し、臨穎の縣卒の江豐は之を斬る。癸酉 (9+60-47+1=23日)、首を洛陽に傳える。臨淮王の彧は復た自ら魏主に歸し、安豐王の延明は妻子を攜えて來奔す。

■ 【衣冠の人物は盡く中原に在り】 陳慶之之入洛する也、蕭贊 (豫章王綜、魏に奔るは150卷普通六年にあり) は啟を送りて還らんを求む。時に吳淑媛は尚ほ在り、上は贊の幼時の衣を以て此に寄せ使め、信未だ達せず而して慶之は敗れる。慶之は魏より還り、特に北人を重んじ、朱異は怪しみ而して之を問ひ、慶之は曰く、「吾は始め以為えらく大江以北は皆な戎狄之郷なり、洛陽に至る比^ひおい、乃ち知る、衣冠の人物は盡く中原に在り、江東の及ぶ所に非ざる也、奈何して之を輕んじるや？」

● 【魏の論功行賞】 甲戌 (10+60-47+1=24日)、魏は上黨王の天穆を以て太宰と為し、城陽王の徽を大司馬兼太尉と為す。乙亥 (11+60-47+1=25日)、魏主は宴して爾朱榮、上黨王の天穆及び北來の督將を都亭に勞わり、宮人三百、繒錦雜彩數萬匹を出し、班賜すること差有り、凡そ元顥の爵賞階復 (復は賦役を免除) を受ける者は、悉く之を追奪す。

● 秋、七月 (元嘉曆閏七月)、辛巳 (17-16+1=2日)、魏主は始めて宮に入る。

● 【公事と私事】 高道穆を以て御史中尉と為す。帝の姉の壽陽公主は行きて清路を犯し、赤棒の卒 (中尉の前驅の卒は赤防を執る、即ち道を清める者) は之を呵し、止まず、道穆の令卒は其の車を擊破す。公主は泣いて帝に訴え、帝は曰く、

「**高中尉**は清直之士なり、彼の行く所の者は公事なり、豈に私を以て之を責める可けん也！」

道穆は帝に見え、帝は曰く、

「家の姉は行路を行きて相い犯す、極めて以て愧と為す。」

道穆は冠を免ぎて謝し、帝は曰く、

「朕は以て卿に愧ず、卿は何ぞ謝する也！」

● **【永安の五銖錢を鑄る】** 是に於いて魏は細錢多く、米斗は幾んど直一千なり、**高道穆**は上表して、以為く、

「市に在るの銅價は、八十一錢にて銅一斤を得、私造の薄錢は、斤ごとに二百に贏^{あま}る。既に之に示す深利を以てし、又た之に隨うは重刑を以てす、罪に抵るは多きと雖も、奸鑄は彌々衆し。**(9-092p)** 今錢は徒らに五銖之文（続は名）有り、而も二銖之實無く、之を水上に置けば、殆んど沉まざらんと欲す（表面張力で浮かばんとする程軽いの意味）。此れ乃ち因循（古い習慣や方法などに従うばかり）して漸有り、科防（解釈・出処）切ならず、朝廷は之を失い、彼復た何ぞ罪せん！宜しく大錢を改鑄し、文に年號を載せ、以て其の始めを記し、則ち一斤の成す所は七十錢に止め、私鑄の費^{つひ}やす（欠、続による）所を計るに自ら潤（利）する能わず、直に（私鑄を）置くも利無く、自ら應に息心すべし、況んや復た嚴刑廣く設けるを也！」

金紫光祿大夫の**楊侃**も亦た奏して、

「乞う民に聽して官と並びに五銖錢を鑄しめん、民をして為るを樂しま使めば而して弊は自ずから改まらん。」

魏主は之に従い、始めて永安の五銖錢を鑄る。

● 辛卯（27-16+1=1 2 日）、魏は車騎將軍の**楊津**を以て司空と為す。

【梁州益州の混乱】

● **【梁州益州の動乱、傅豎眼の赴任】** 初め、魏は梁、益二州の境土の荒遠なるを以て、更に巴州を立てて以て諸獠を統べること、凡そ二十餘萬戸、巴酋の**嚴始欣**を以て刺史と為す。又た隆城鎮（標高が高いの意味）を立て、**始欣**の族子の**愷**を以て鎮將と為す。**始欣**は貪暴にして、孝昌の初め、諸獠は反し、州城を圍み、行台の**魏子建**は之を撫諭し、乃ち散ず。**始欣**は罪を獲るを恐れ、陰に來たりて降を請い、帝は遣使し詔書、鐵券、衣冠等を以て之に賜い、**愷**の獲る所と為り、以て**子建**に送る。**子建**は奏して隆城鎮を以て南梁州（五代志に巴西郡にもと南涼州を置くと。この州にもと隆城あり、故に又これを南隆という。古の閬中城、四川省嘉陵道閬中県の西、現・南充市閬中市）と為し、**愷**を用いて刺史と為し、**始欣**を南鄭に囚える。魏は**唐永**を以て東益州（魏は武興に置く）刺史と為し**子建**に代わらしめ、梁州刺史の**傅豎眼**（460 年～529 年、清河郡貝丘縣人。南朝宋名將傅靈越之子）を以て行台と為す。**子建**は東益を去り而して氐、蜀は尋ぎて反し、**唐永**は城を棄てて走り、東益州は遂に没す。

● **【傅敬紹の陰謀露見】** **傅豎眼**之初めて梁州に至る也（148 卷天監 15 年にあり）、州人は相い賀す。既に而して久しく病し、親ら政事する能わず。其の子の**敬紹**は、奢淫貪暴なり、州人は之を患う。**嚴始欣**は重く**敬紹**に賂し、巴州に還るを得たり、遂に舉兵して**嚴愷**を撃ち、之を滅ぼし、巴州を以て來降す、帝は將軍の**蕭玩**等を遣わして兵を將いて之を援けしむ。**傅敬紹**は魏室の方に亂れるを見、陰に南鄭に保據する之志有り、其の妻の兄の**唐崑崙**をして外に於いて山民を扇誘し相い聚（続は與）めて城を圍ま使め、内應を為さんと欲す。圍合し而して謀は洩れ、城中の將士は共に**敬紹**を執り、以て**豎眼**に白し而して之を殺し、**豎眼**は恥恚し而して卒す。

● **八月**、己未（55-46+1=1 0 日）、魏は太傅の**李延寔**を以て司徒と為す。甲戌（10+60-46+1=2 5 日）、侍

中、太保の**楊椿**は致仕す。

【蕭衍の大規模な無遮大會】

■**九月**，癸巳（29-15+1=15日），上は同泰寺に幸し，四部（続は欠）の無遮大會（無遮は一切平等慈悲の意の仏語。五年に一回、貴賤の別なく、一切平等に財施と法施とを行ずる法会。インドのアショカ王に始まるといわれ、中国・日本でも行なわれた。無遮会（むしゃえ）。無遮法会。※続日本紀 - 天平一七年（745）八月庚子「設二無遮大会於大安殿一焉」〔大唐西域記 - 五〕）を設ける。上は御服を釋き，法衣を持し，清淨の大捨を行い，便省（同泰寺の上の行幸の居場所）を以て房と為し，素床瓦器にして，小車に乗り，私人は役を執る。甲子（甲午だろう、30-15+1=16日），講堂の法座に升起，四部（僧尼善男善女）の大衆の為に開《涅槃經》の題を開く。癸卯（39-15+1=25日），群臣は錢一億萬を以て三寶（仏と法と僧、仏陀耶衆を以て仏寶と為し、達磨耶衆を法寶と為し、僧迦耶衆を僧寶と為す）に祈白し，**皇帝菩薩**（梁の武帝蕭衍）を奉贖し，僧衆は默許す。乙巳（41-15+1=27日），百辟（諸侯百官）は寺の東門に詣りて，（9-093p）表して奉り還りて宸極（天子の御所）に臨まんことを請い，三たび請い，乃ち許す。上は三たび答書し，前後並びに「頓首」と稱す。

●**〔侯淵の幽州平定〕**魏の**爾朱榮**は大都督の尖山の侯淵をして**韓樓**を薊に討たせめ，卒を配すること甚だ少なく，騎は止だ七百のみ。或は以て言を為し，**榮**は曰く、

「**侯淵**は臨機に變を設れるは，是れ其の長ずる所。若し大衆を總べれば，未だ必ず用いる能わず。今此の大衆を以て此の賊を撃てば，必ず能く之を取らん。」

淵は遂に廣く軍聲を張り，多く供具を設け，親ら數百騎を帥いて深く**樓**の境に入り。薊を去ること百餘里，賊帥の**陳周**の馬歩萬餘に値い，**淵**は潜伏し以て其の背に乘じ，大いに之を破り，其の卒五千餘人を虜とす。尋いで其の馬仗（馬と兵器）を還し，**縱**して城に入ら令め，左右は諫めて曰く、

「既に賊衆を獲たるに，何為れぞ復た之を資遣するや？」

淵は曰く、

「我が兵は既に少なく，力戦する可からず，須く奇計を為して以て之を離間すべし，乃ち克つ可き也。」

淵は其の已に至るを度り，遂に騎を帥いて夜進み，昧旦に，其の城門を叩く。**韓樓**は果たして降卒の**淵**に内應を為すと疑い，遂に走る。追いて之を擒とし，幽州は平らぐ。**淵**を以て平州（魏の平州はもと肥如に治す、今移りて范陽に治す）刺史と為し，范陽（京兆涿県）に鎮せしむ。

●**〔韓樓を滅ぼす〕**是より先，魏は征東將軍の**劉靈助**をして尚書僕射を兼ね，幽州の流民を濮陽頓丘に慰勞せ使め，因りて流民を帥いて北に還り，**侯淵**と共に**韓樓**を滅す。仍って**靈助**を以て幽州の事を行わしめ，車騎將軍を加え，又た幽、平、營、安四州行台と為す。

●**〔万俟丑奴は東秦州刺史を殺害〕****万俟丑奴**は魏の東秦州（五代志に、上郡に後魏は東秦州を置き、後に改めて北秦州を為すと、陝西省榆林道鄜県、現・延安市富県）を攻め，之を抜き，刺史の**高子朗**を殺す。

■**〔蕭衍は再度の無遮大會〕****冬，十月**，己酉（45-45+1=1日），上は又た四部の無遮大會を設け，道、俗は五萬餘人。會畢わり，上は金略に御して宮に還り，太極殿に御し，大赦し，改元（中大通元年）す。

●魏は前司空の**蕭贊**を以て司徒と為す。

●**十一月**，己卯（15-14+1=2日），**就德興**（150 卷普通二年にあり）は降を魏に請い，營州は平らぐ。

●丙午（42-14+1=29日），魏は城陽王の**徽**を以て太保と為し，丹楊王の**蕭贊**を太尉と為し，雍州刺史の**長孫稚**を司徒と為す。

■●十二月，辛亥（47-44+1=4 日），兗州刺史の張景邕、荊州刺史の李靈起、雄信將軍の蕭進明は叛し，魏に降る。（三人とも梁魏の国境の民豪にして、刺史・將軍の号を以て寵授するのみ）

■陳慶之を以て北兗州（淮陰に治す）刺史と為す。妖賊の僧強有りて，天子を自稱し，土豪の蔡伯龍は兵を起こして之に應じ，衆は起（続は至る）つこと三萬，攻めて北徐州（鍾離に治す）を陷す。慶之は討ちて之を斬る。

●魏は岐州刺史の王顓を以て南秦州の事を行わしむ。顓は州境の群盜を誘い捕り，悉く之を誅す。

令和 4 年 12 月 28 日 翻訳開始 5447 文字

令和 4 年 12 月 31 日 翻訳終了 11442 文字